

科目	診療の補助技術Ⅱ				
時間数	1単位 30時間	授業方法	講義	授業時期	2年
講師名	③八塚愛未 ③矢野美穂 ③神野みのり				
実務経験	③看護師(医療機関)				
ねらい	生体機能に関する基礎知識(人体の構造と機能)をもとに、検査や治療(与薬)に必要な技術を学ぶ。				
目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 検体検査時の検体採取の方法と取扱いがわかる。</li> <li>2. 生理機能検査における看護師の役割がわかる。</li> <li>3. 安全・確実な予約ができる技術を学ぶ。</li> </ol>				
授業計画					
回	内容				
1~4	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 検査の介助 <ul style="list-style-type: none"> <li>(1)検体の採取と取扱い <ul style="list-style-type: none"> <li>①尿・便・喀痰及び咽頭分泌物・血液(中央検査室見学を含む)</li> </ul> </li> <li>(2)生理機能検査の介助 <ul style="list-style-type: none"> <li>①呼吸機能・心電図・超音波(生理機能検査室見学を含む)</li> <li>②X線検査・CT・MRI・内視鏡(放射線科見学を含む)</li> </ul> </li> </ul> </li> </ol>				
5~6	血液事業について(愛媛県赤十字血液センター講師来校)				
7	テスト				
8・9	(事前学習及び臨地での演習) 座薬の投与				
10・11	(事前学習及び臨地での演習) 静脈内採血、針刺し事故の取り扱い				
12・13	(事前学習及び臨地での演習) 皮下注射、筋肉注射				
14・15	(事前学習及び臨地での演習) 静脈路確保、点滴静脈内注射、輸血の管理				
評価方法	<p>その時間数の3分の2以上の出席者に限り受験資格を与える。</p> <p>学科終講時に行う筆記試験 90%、デジタル教材取り組み状況 10%を総合して評価する。</p> <p>60点以上を及第点とする。</p> <p>技術を実施し、手順通りに実施できれば経験録に捺印する。</p>				
教科書	<p>基礎看護学③ 基礎看護技術Ⅱ:医学書院</p> <p>根拠と事故防止から見た基礎・臨床看護技術 第2版:医学書院</p> <p>別巻 臨床検査:医学書院</p> <p>疾病のなりたちと回復の促進③ 薬理学:医学書院</p>				